

自分から勉強する子を育てる

「いつまでグズグズしてるの。さっさと部屋に行って勉強しなさい。」などと怒鳴りつけていると、自分から勉強する子には育ちません。

ある進学塾の調査では、中学受験で上位校に合格できる子の大半がリビングで勉強していたというのです。

特に、最初の10分程度を一緒に見てあげて、その後は一人で勉強させるのがベストなのだそうです。夕食の準備や後片づけをしながら、お子さんが勉強している姿を見て「〇〇君が勉強して、がんばってるのを見ると、お母さんはなんだかうれしくなっちゃうなあ。」と勇気づけるのです。

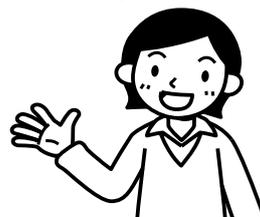
「勉強しなさい」と言い続けるよりも、ずっと効果があがります。

子どもは、「親が喜ぶ姿を見たい」がためにがんばるものなのです。

ここでのポイントは、「アイメッセージ」にあります。

直接的に子どもに指示・命令するのではなく、あくまでも親としての気持ちをメッセージとして伝えることにあります。

- こんなことをしているあなたを誇りに思うよ
- 頑張れないのは、お母さんは悲しいなあ



というように、子どものありのままを受け入れながら、あくまでも親としての気持ちを優先して伝えます。

これを使うことによって、子どもはよくないことをしていても自己否定に陥ることなく改善を図れます。

自己否定になると、「どうせボクなんか」「どうせやっても」など意欲は育っていきません。すると、自己否定→意欲の低下→成果の低下→自己否定……という悪循環になります。

自己肯定感を高め、意欲をかき立ててあげるといいですね。